



RAKUWA
lecture of health

第79回 らくわ健康教室

2011年12月10日



形成外科ではどんな 治療をしているの？

～ シミ・小腫瘍の治療 ～

洛和会音羽病院 形成外科 シニア・レジデント よしはら まさのぶ 吉原 正宣



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院

形成外科とは? 整形外科との違いは?

整形外科は、人間が日常運動をするうえで支障となる病気（骨、関節、筋肉などの病気）を治療するのに対し、形成外科は体の表面にある病気の治療を行います。

形成外科の対象疾患

- 1 外傷、外傷後変形（けが、やけどなど）**
 - 擦り傷、切り傷、やけど、しもやけ、顔の骨折
 - けがの傷跡で、傷跡が盛り上がった状態になったもの、ひきつれをおこしているもの
 - 顔面神経麻痺など
- 2 腫瘍、腫瘍手術後変形（皮膚のできものなど）**
 - 体の表面の良性、悪性の腫瘍
 - 他の科の手術で失われた組織を治す（乳がん手術後の乳房形成など）
- 3 表在性先天異常（生まれつきの体の表面の形や色の異常など）**
 - 耳、口、鼻、まぶた、へそ、性器、手指など
 - 赤あざ、青あざ、黒あざなど種々のあざの治療
- 4 美容外科**

● 老人性色素斑 / 脂漏性角化症

シミのなかでも最もありふれたもので、どこにでも生じます。平坦なものが老人性色素斑で、隆起したものが脂漏性角化症です。ただ、鑑別疾患のなかには「悪性黒色腫」や「基底細胞がん」も含まれるので、診断には注意が必要です。

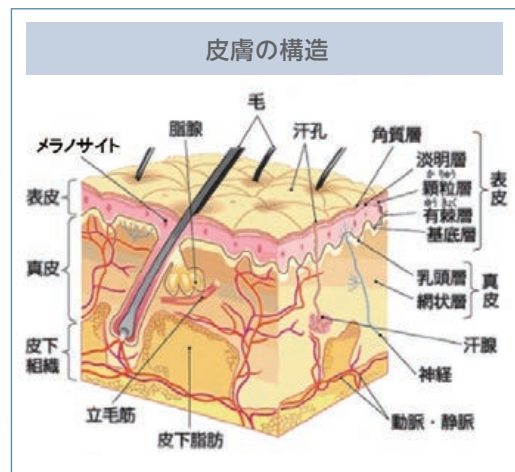
● 肝斑

「くすみ」のことで、16歳以上に見られ、化粧などによるこすりすぎが原因と思われる。治療薬もありますが、こすらないのが一番です。

● そばかす

● PIH（炎症性色素沈着）

外傷や熱傷など、皮膚の損傷が治癒した後にできることが多いシミです。



シミが発生する原因とシミの種類

紫外線などを浴びたとき、肌を守ろうとメラノサイトという細胞が刺激され、産生されたメラニン色素によって日焼けが起きます。通常は、やがて色素は排出されますが、新陳代謝が低下したり、メラニンの生成が過剰な場合、シミになることがあります。

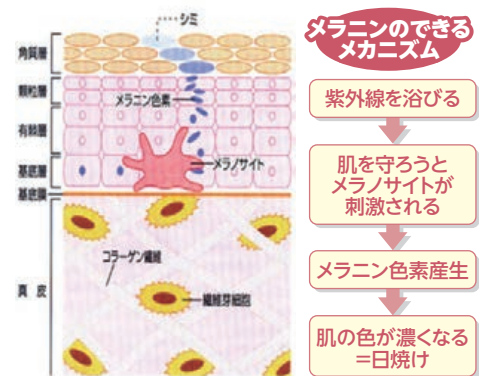
<シミの種類>

- ADM（後天性真皮メラノサイトーシス）
20歳ごろに初発する顔面色素斑



シミの概念

メラノサイトにより産生されるメラニンの分布異常





レーザー治療

シミの治療にはいろいろありますが、洛和会音羽病院では、レーザー治療も行っていきます。

Qスイッチルビーレーザー

周囲への熱損傷が小さいのが特長です。
シミの治療に効果をあげています。

- 表在性のシミ(浅いシミ)
 - ・日光性(老人性)色素斑
 - ・そばかす(雀卵斑)
 - ・扁平母斑(茶アザ)
- 深在性のシミ(深いシミ)
 - ・後天性真皮メラノサイトース(遅発性両側性太田母斑様色素斑)
 - ・太田母斑(青アザ)
 - ・蒙古斑(青アザ)
- その他
 - ・外傷性色素沈着症(外傷性刺青)
 - ・刺青(入れ墨・タトゥー)
 - ・美容刺青(アートメイク)

炭酸ガスレーザー

脂漏性角化症、ほくろ、いぼなどの治療に効果をあげています。

- 適応疾患
脂漏性角化症、黒子(ほくろ)、尋常性疣贅(いぼ)etc
- 黒子(ほくろ)の治療

皮膚のできもの

<良性腫瘍>

- 表皮のう腫
- 脂漏性角化症
- 石灰化上皮腫
- 皮膚繊維腫
- 軟線維腫

表皮のう腫

【アテローム、粉瘤^{りゅう}】

最も頻繁的にみられる上皮性のう胞

のう腫壁(袋の部分、表皮と同じ構造) ©社団法人 日本皮膚科学会

<悪性腫瘍>

基本的に外科的治療が第一選択とされ、種類によっては、必要に応じて、化学療法、放射線療法、免疫療法なども行います。

ボーエン病

- 有棘細胞がん(表皮の中間層を占める有棘層を構成する細胞から発生するがん)の前兆となる症状(前駆症)で、比較的高齢者に多い
- 基本的には単発で発生し、紅褐色～暗褐色、または黒色をしている

日光角化症

- 有棘細胞がんの前駆症で、比較的高齢者に多い
- 露光部位に多く、扁平に隆起した黄褐色の局面をしており、周辺は炎症性の潮紅が見られる

基底細胞がん

- 頻度の高い皮膚がんで、高齢者の顔面正中に好発する
- 紫外線などが誘因
- 色は黒褐色で、局所で強く浸潤し、中央が潰瘍化することもある

有棘細胞がん

- 表皮ケラチノサイト（表皮を構成する細胞の大部分である角化細胞）の悪性増殖が原因のがん
- 露光部位に多い
- 硬い隆起で、しばしば壊死・潰瘍化することもある

【先行病変】

分類	病名
瘢痕性病変	熱傷瘢痕、慢性放射性皮膚炎、尋常性狼瘡、慢性膿皮症、円盤状エリテマトーデス
がん前駆症	Bowen病、日光角化症、白板症、色素性乾皮症、汗孔角化症、外陰萎縮症
その他	包茎、先天性多形皮膚萎縮症、栄養障害型表皮水疱症、尖圭コンジローム、扁平苔癬



ケラトアカントーマ

- 有棘細胞がん に似た疾患であるが、有棘細胞がんは全身のどこにでもできるのに対し、ケラトアカントーマは、おもに顔面にできる

悪性黒色腫

- 最も悪性の皮膚がんで、転移しやすいのが特徴
- メラノサイト（メラニンをつくる細胞）由来
- 一般の人には、シミやほくろと見分けが付きにくい
- どこにでも生じる（特に爪、足の裏、下肢、顔）

その他の疾患



母斑

① 上皮細胞系母斑

脂腺母斑、汗腺母斑、表皮母斑、副乳 ほか

② 神経節起原細胞系母斑

扁平母斑、母斑細胞母斑、太田母斑（褐青色母斑）、青色母斑、脱色素性母斑 ほか

③ 間葉細胞系母斑

結合織母斑、貧血母斑、軟骨母斑
脈管母斑（血管腫、リンパ管腫） ほか

母斑症

- ブーヌヴィーユ・プリングル母斑症
- レックリングハウゼン母斑症
- スタージ・ウェーバー症候群
- クリップル・ウェーバー症候群
- ポイツ・イエガース症候群

